

自立活動の内容6区分の1つ「コミュニケーション」

「表出のコミュニケーション支援」について



コミュニケーションとは

コミュニケーションは、大きく分けて、「理解コミュニケーション」と「表出コミュニケーション」の2つの側面があり、**相互作用**によって成り立っています。

- ・言葉、表情、絵・写真カード、文字、コミュニケーション機器
- ・PECS(絵カード交換式コミュニケーション法)



自分の気持ちや思いを相手に伝えること
表出コミュニケーション

理解コミュニケーション
他者からのメッセージを理解すること



- ・具体的、肯定的な表現
- ・構造化(視覚的な手がかりやルーティンを使って《意味》と《見通し》が理解できるように)

Q なぜ、子どもは「表出」が難しいのでしょうか？

子どもが自分の思いをうまく伝えられない時、それは「話したくない」わけではなく、「伝えにくい」状況にあることがほとんどです。背景には様々な理由があります。

1. **言葉の獲得段階**: 伝えたい気持ちに対して、語彙や表現方法が追いついていない場合があります。
2. **経験不足**: 自分の感情や考えを言語化し、他者に伝える成功体験が少ない場合があります。
3. **感覚・認知の特性**: 情報の受け取り方や、記憶しておく容量に個人差があります。
4. **不安・緊張**: 「間違えたらどうしよう」といった気持ちが、言葉をせき止めてしまうことがあります。

「伝えられない」ことで生じる「困った(困っている)行動」は、多くの場合、子どもの精一杯の非言語的メッセージです。



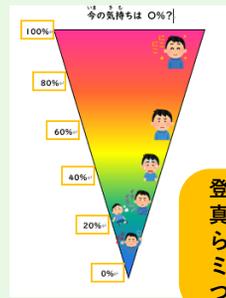
ポイント

一人一人に合わせた**伝え方**を教えることが重要なことなのです。

「表出サポートツールの紹介」

事例1 朝の健康観察で

朝の会で、この「気持ちの温度計」を指し示してもらうことで、言葉が少なくても子どものその日の体調や気分を把握できます。大人は焦らず、まずは指し示された気持ちをそのまま受け止める「受容」の姿勢が大切です。子どもの小さなSOSに気づききっかけになります。



登校したら、名前カードや写真カードを貼り付ける→後から理由を聞いてみたり、コミュニケーションツールの1つになります。

事例2 要求・意志表示を助けるコミュニケーションボード

発話が難しい場面では、この「ひらがなボード」を広げ、伝えたい言葉を指で示してもらいます。大人も焦らず、子どものペースに合わせて言葉を引き出せます。



「いろんなことたくさんあるよね♪」と、1文字ずつ思っていること考えていることを、コミュニケーションボードに貼って伝えます。共感できて、伝わって嬉しそうでした。



←PECS® (絵カード交換式コミュニケーションシステム) を使って、給食のおかわりの要求。「ちょうだい。」と言葉も出てきました。
→休憩時には、休憩ボードから遊びたいおもちゃを要求します。



事例3: ICTを活用した多様な表現

子どもの実態に応じて、アプリやスイッチ、視線入力装置等のICT機器も活用できます。タブレット端末の「支援アプリ」や文字入力機能を活用することで、より多様な言葉や複雑な文章の表出が可能になります。子どもの興味を引きやすく、学習意欲の向上にもつながります。

文字入力音声表出アプリ、スイッチ (音声入力→再生)、視線入力等



「言葉の発音について」の拡大代替コミュニケーション手段 (AAC) の活用にも載っています

ポイント

・子どもの実態把握を大切に、一人一人の実態に合わせてわかりやすい (実物・写真・イラスト・文字)、扱いやすい (素材・大きさ・太さ・情報量等) ものを準備します。

誰にでも

・急いでいる時、すぐに必要な時は、イラストや文字等を書いて使用します。

・「伝わる」という成功体験を積み重ねることが、次の「表出」への意欲につながります。

